

令和5年度 南湖小学校 学校評価(自己評価)

本校では、学校教育目標に『心豊かな人間性と たくましい実践力を 身につけた子どもの育成』を掲げ、「かしこく やさしく たくましく」を合言葉に知・徳・体のバランスの取れた児童の育成をめざして、学校長を中心に全職員一丸となって取り組んでいる。

また、《めざす学校像》を『家庭で育ち 学校で学び 地域で伸びる』とし、家庭や地域と連携した学校経営、今年度から始まった小中一貫教育を意識した学校経営を進めている。

それらをもとに、昨今の教育課題も踏まえつつ、教職員・保護者・児童にアンケート調査を実施し、それをもとに令和5年度の学校評価を行った。

■回答日時 令和5年12/4(月)～12/10(日)

■評価の分野

ア、学校経営に関して イ、学習指導に関して ウ、生徒指導に関して
エ、学校の特色・課題に関して オ、小中一貫教育に関して

■回答数 R4 後期 教職員：19 (11月実施) 保護者：164 児童：174
R5 教職員：17 保護者：163 児童：164

■評価の観点 ■そう思う ■だいたいそう思う ■あまりそう思わない ■そう思わない ■わからない

※プラス評価(そう思う, だいたいそう思う), マイナス評価(あまりそう思わない, そう思わない)

分野別の回答状況と考察・改善策

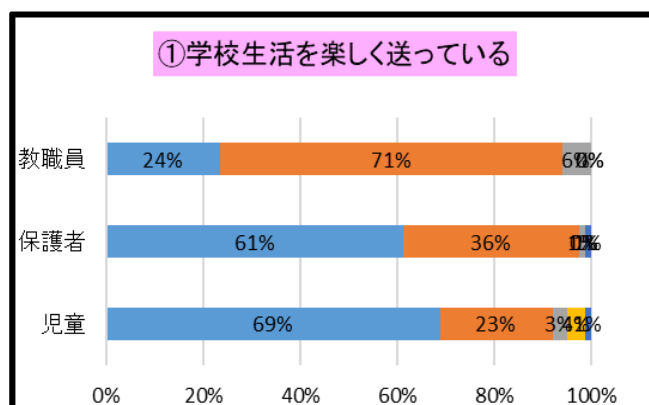
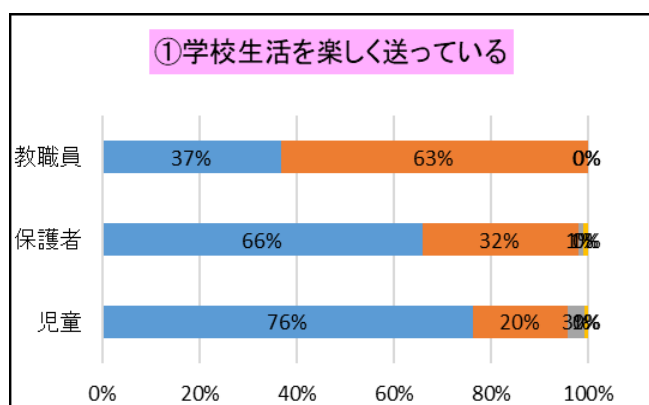
I 学校経営について

■そう思う ■だいたいそう思う ■あまりそう思わない ■そう思わない ■わからない

① 楽しい学校生活

R4

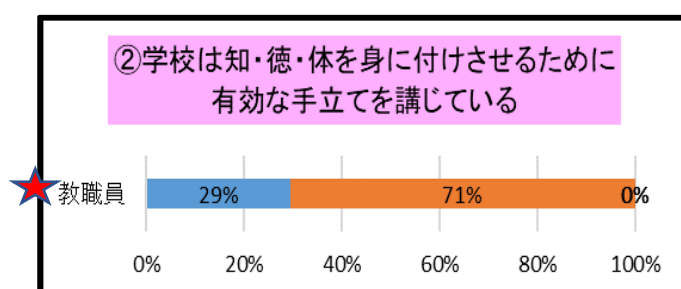
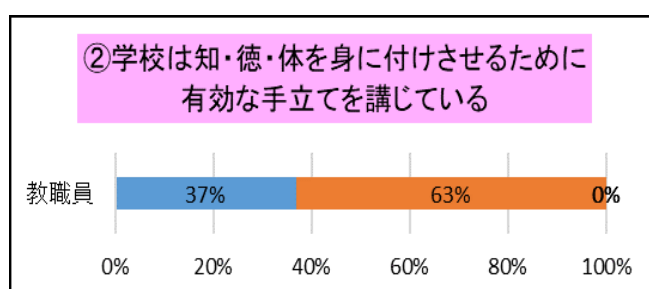
R5



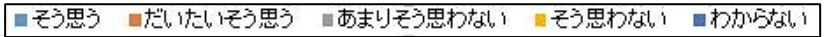
② 学校教育目標達成の取組

R4

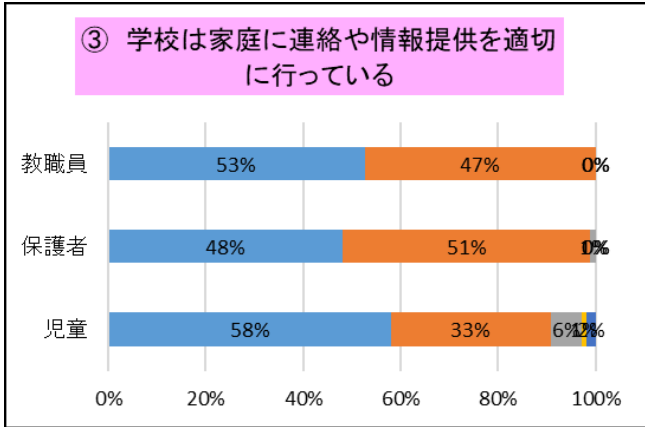
R5



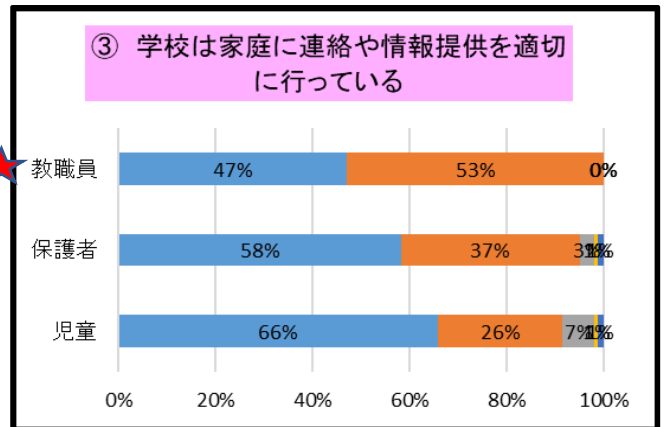
③ 家庭への連絡や情報提供



R4

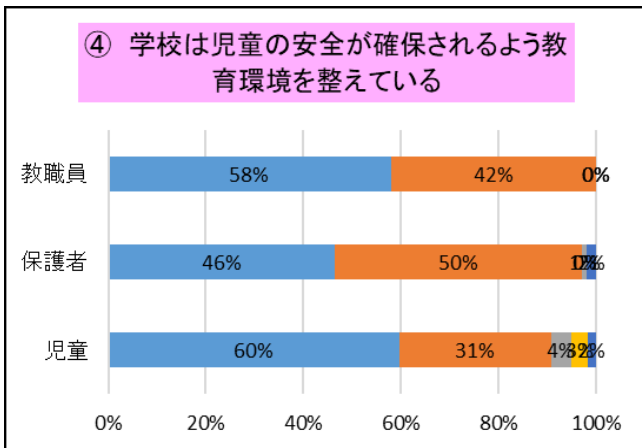


R5

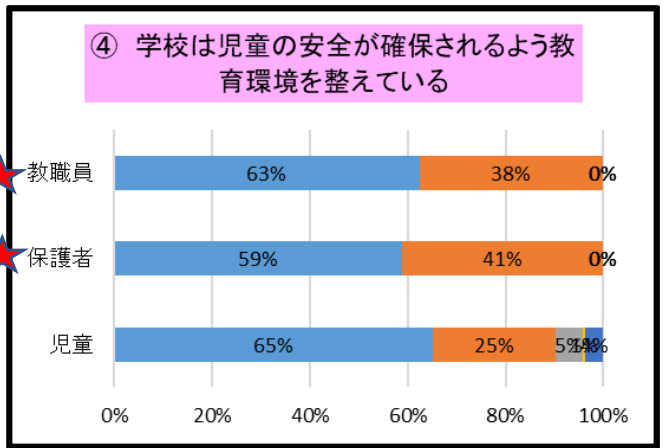


④ 安全な教育環境

R4

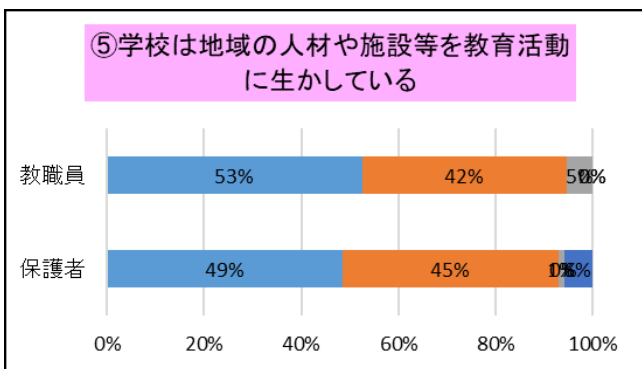


R5

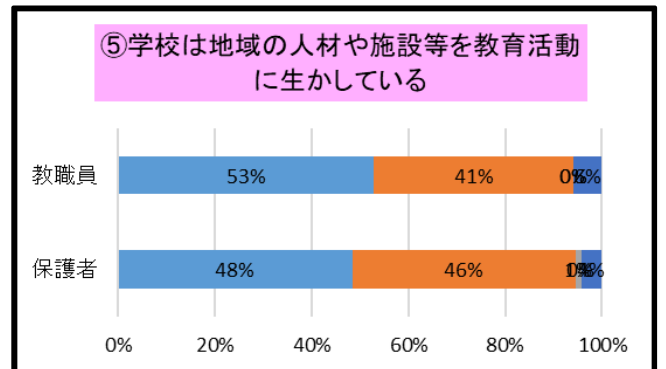


⑤ 地域人材の活用、施設設備の整備

R4



R5



考察

今年度も全ての項目で、三者の回答のプラス評価（肯定的評価）が90%以上と高く、引き続き学校教育目標や学校教育方針に基づいた学校経営がなされ、一定の成果を実感していることが分かる。特に教職員の②学校教育目標達成の取組と③家庭への連絡や情報提供の項目、教職員と保護者の④安全な教育環境の項目は100%のプラス評価となっており、学校が便利や電話、連絡帳、安心メール、HPとあらゆる手段で家庭への連絡や情報提供に努めてきたことや、安全点検を行い、危険箇所をその都度改善してきたことが評価されていると考えられる。加えて、農業ボランティアや学習ボランティアなどの地域人材や市の文化財課、市の施設を積極的に活用し、地域と協働して充実した教育活動が実現していることも評価されたといえる。

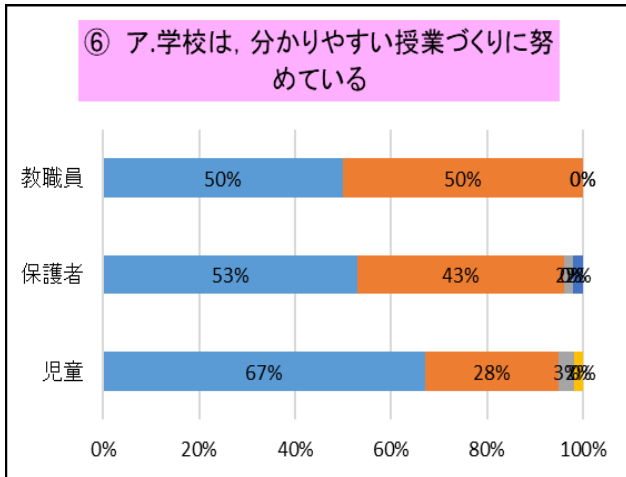
①学校生活を楽しく送っている の項でマイナス評価を回答している6.7%（11人）の児童の存在も心に留めながら、さらに魅力ある学校づくり、全ての児童の居場所がある学校づくりに励んでいきたい。

II 学習指導

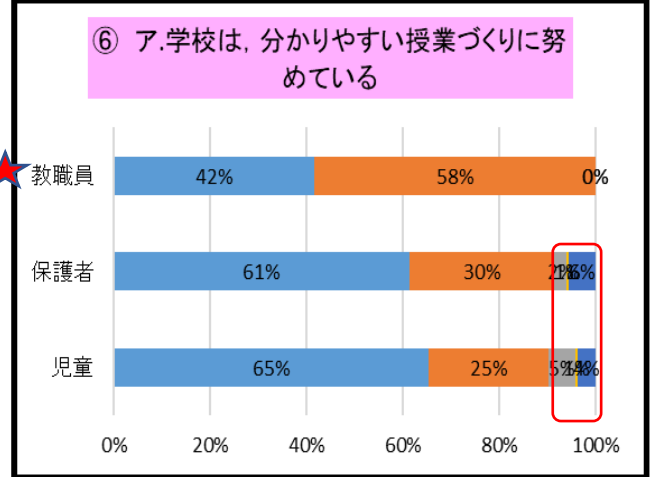
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

⑥ 分かりやすい・楽しい授業への取組

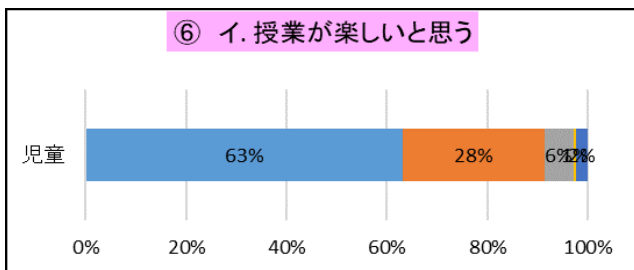
R4



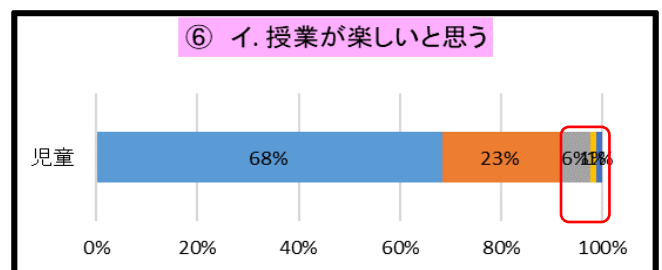
R5



R4

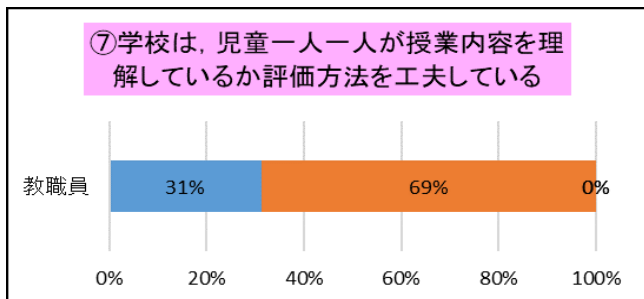


R5

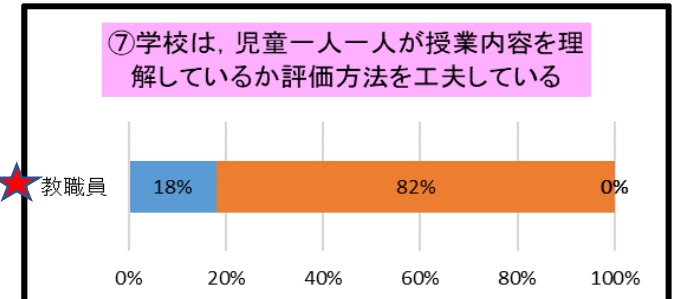


⑦ 学習評価

R4

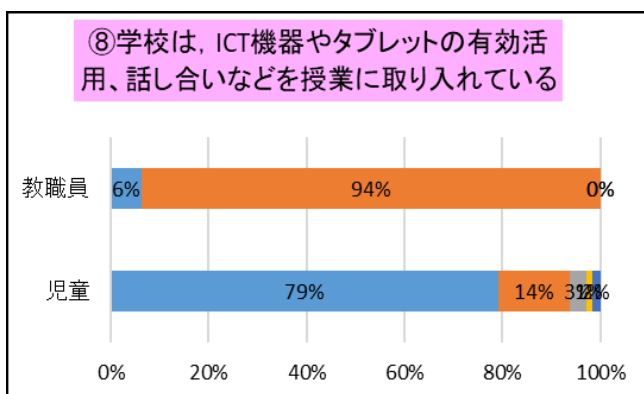


R5

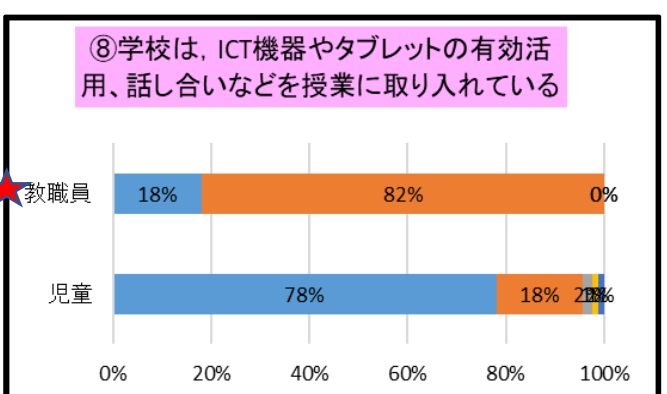


⑧ ICT機器の活用、話し合い

R4



R5

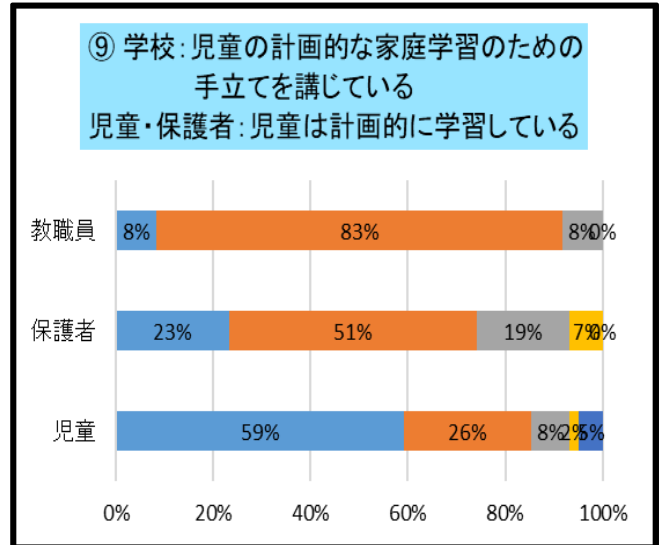
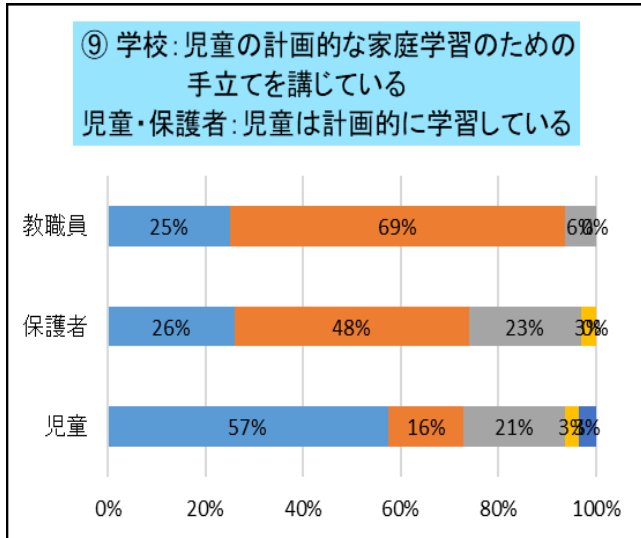


■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

⑨ 家庭学習

R4

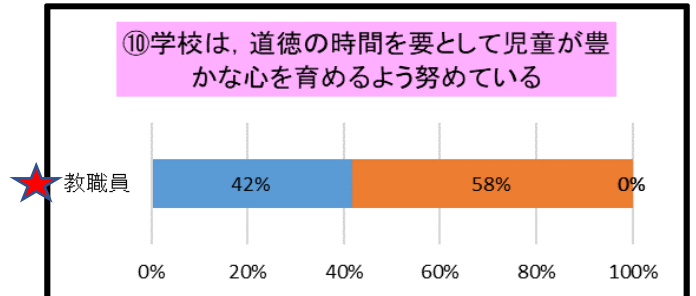
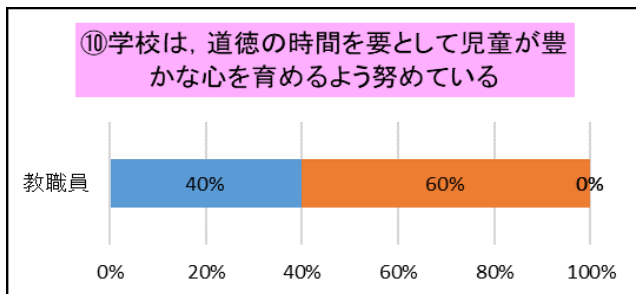
R5



⑩ 豊かな心の育成

R4

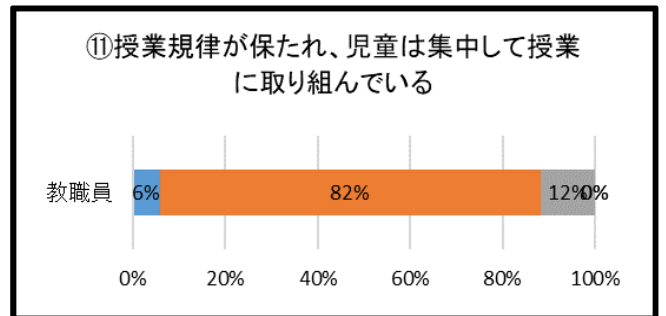
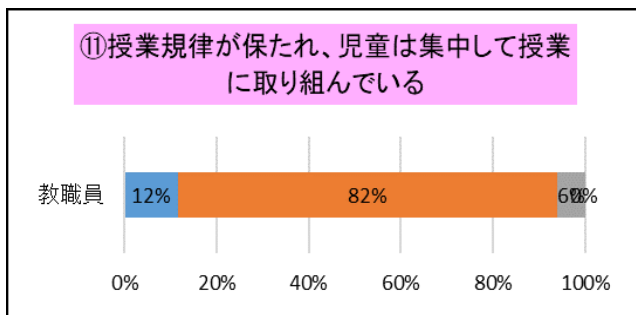
R5



⑪ 学習規律

R4

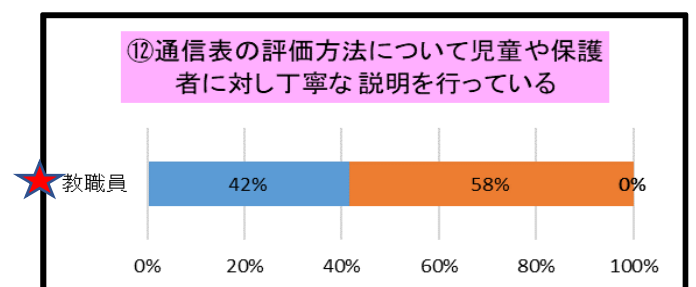
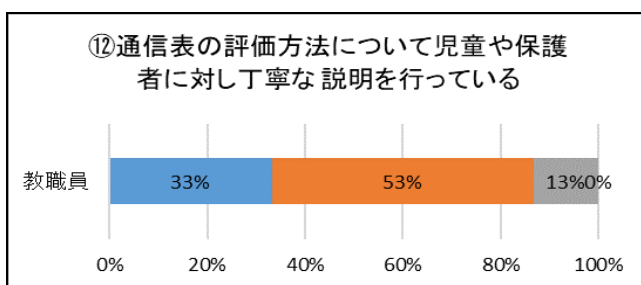
R5



⑫ 評価についての説明

R4

R5



考察

⑥, ⑦, ⑧, ⑩, ⑫の5つの項目について、三者ともプラス評価が90%以上を超える良好な結果となった。特に教職員のアンケートでは、全てにおいて100%のプラス評価になっており、各担任が児童の学力向上のために、教材研究や授業改善、新しい学力観に合わせた評価方法の工夫、タブレット等のICT機器の活用や協働的な学習場面の設定など授業づくりに日々努力してきたことや、心を育てるために道徳の授業を大切にしてきたことがうかがわれ、専門職としてプライドをもって学習指導に取り組んでいることがわかる。また、⑫からは、本校の教職員が個別懇談等を利用し、児童の伸びたところや課題について直接保護者と話し合い、協力して子ども達を育てていこうという姿勢で取り組んでいることがわかる。それらの取組が、保護者や児童に伝わったものと考えられる。引き続き、わかりやすい楽しい授業についてマイナス評価をしている一部の児童についてもプラスに変容していけるよう、努力していきたい。

一方、⑨の計画的な家庭学習の項目は、昨年より児童のプラス評価が増えているものの、児童・保護者ともに他の項目より依然少ない結果となった。家庭学習定着週間や自主学習の推進等、学校からの働きかけの結果、家庭学習への児童の意識が高まってきた一方で、家庭での指導の難しさを感じている保護者も多いことが結果に表れていると考えられる。⑪の学習規律についても概ね良いが、現状に甘んじず常に向上を目指す教師の姿勢が結果から見て取れる。

改善策

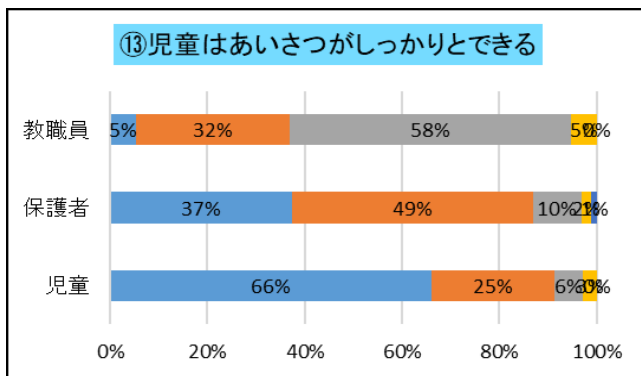
- 引き続き家庭学習の方法や内容について保護者や児童に情報提供していくとともに、保護者の個別の相談にも対応していく。
- 県の学力向上事業などを活用し、児童や保護者向けに家庭学習も含めた学習にかかわる講演を聞く機会を設け、家庭での実践につなげられるようにする。

Ⅲ 生徒指導

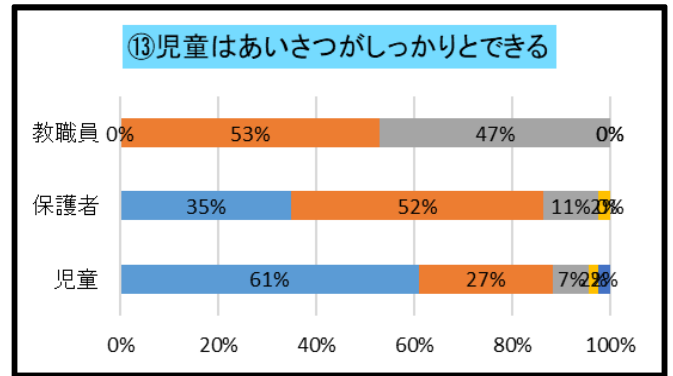
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

⑬ あいさつ

R4

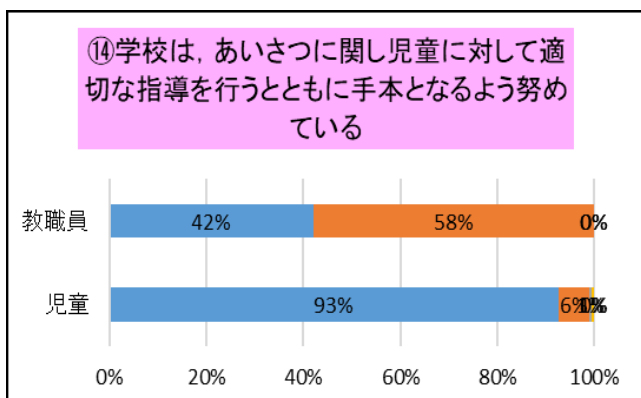


R5

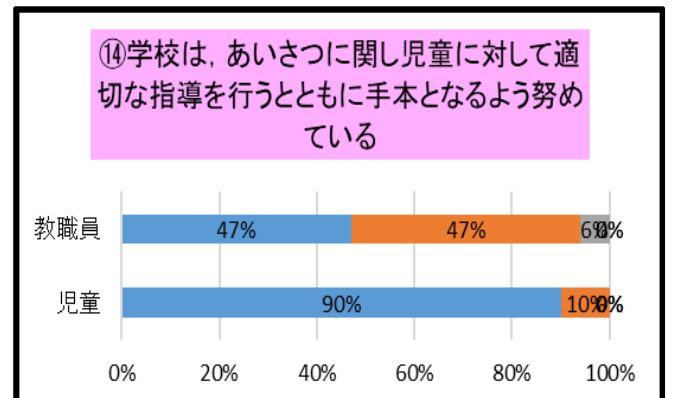


⑭ あいさつの指導

R4



R5

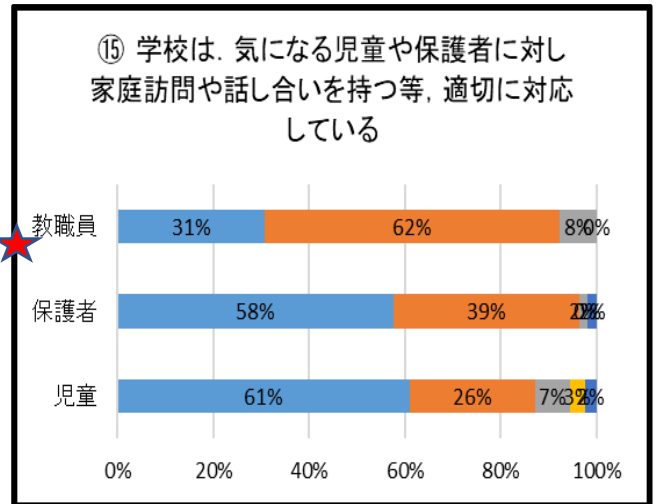
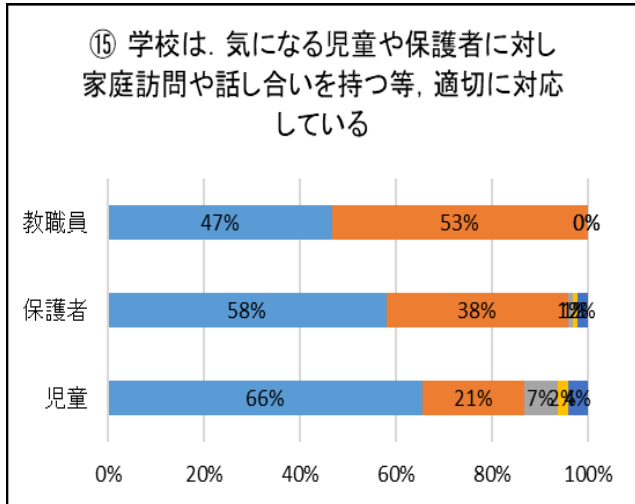


■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

⑮ 相談・支援

R4

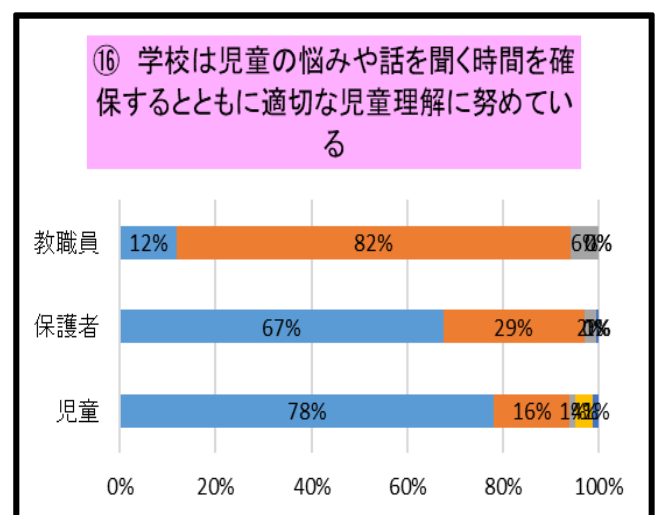
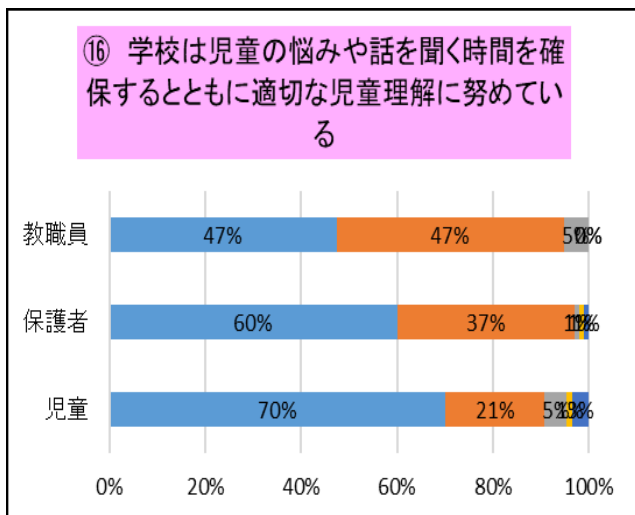
R5



⑯ 児童理解

R4

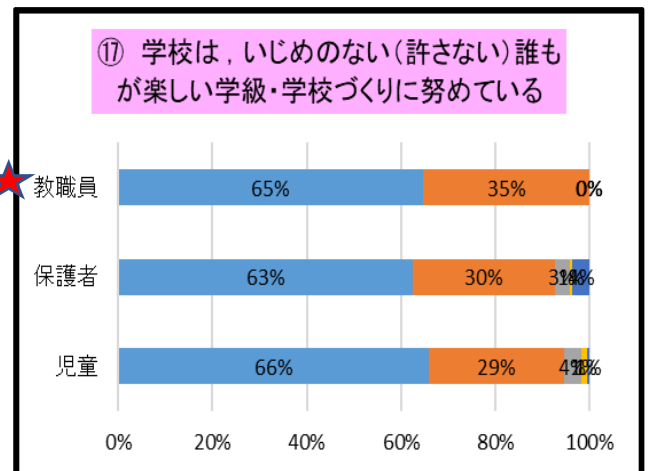
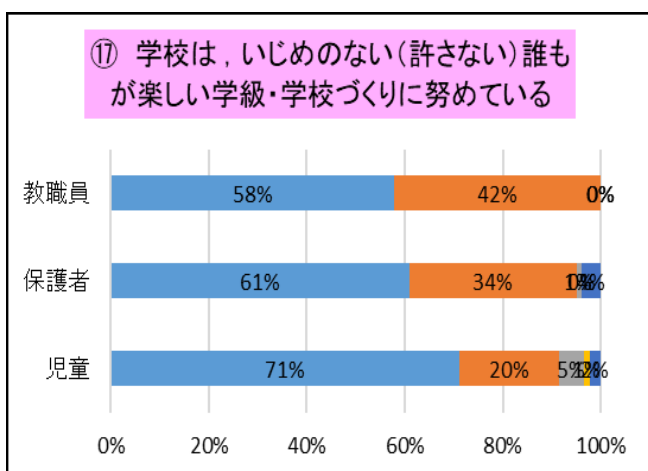
R5



⑰ いじめのない楽しい学級づくり

R4

R5



考察

⑬⑭のあいさつについては、100%の児童が、「先生はよくあいさつしてくれる。」と答えているのに対し、「児童は全体的にあいさつがしっかりできる」と答えている教職員は昨年に引き続き、半数ほどであった。教職員が見ている実態は、依然として保護者や児童の意識と大きくかけ離れている。その理由として教職員から、「声が小さい児童」、「こちらから声をかけないとあいさつがない児童」、「あいさつされても、あいさつを返さない児童」の存在が挙げられている。家庭という内輪の世界では、あいさつを意識する場面は少ないのかもしれない。これから大人になり、社会や地域に出ていくにつれ、必ずあいさつできるということが必要な素養になってくるだけに、今後も児童が意識して自分から気持ちよくあいさつできるように学校のみならず、家庭でも地域でも心掛けて声をかけていくことが大切がある。

⑮の相談・支援、⑯の児童理解については、⑰のいじめのない楽しい学校づくりについては、三者ともプラス評価がほぼ90%以上となり、100%の教職員がいじめのない（許さない）誰もが楽しい学級・学校づくりに取り組んでいると答えていることは大変誇らしい結果である。全ての教職員が複数の目で児童理解に努め、気づいたことを共有し合い、保護者や児童の相談に対応し断固許さない姿勢でいじめ撲滅に臨んでいることの効果が表れていると考える。一方、「困った時など気軽に相談できる先生がいますか。」に対し、マイナス評価をした10%の児童についても目を配り、今後誰か先生に相談できるような様々な立場の教職員が連携して対応していきたい。

改善策

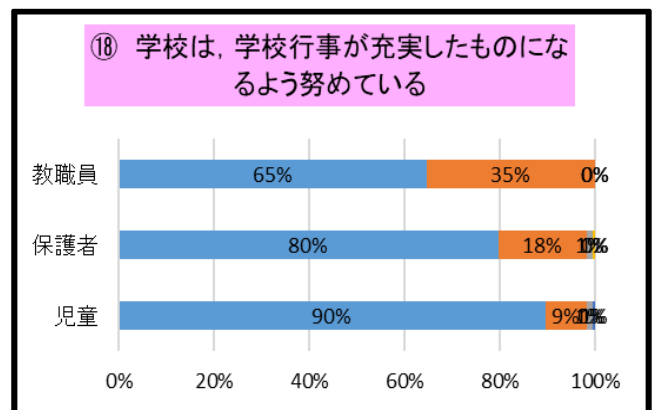
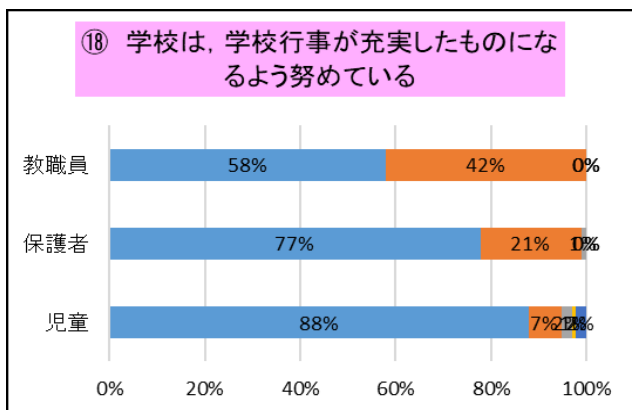
- ・引き続き教職員が一人ひとりの児童にあいさつをしていくとともに、各学級であいさつの意義について指導する。
- ・児童会のあいさつ運動の活性化や地域の青少年育成団体等と連携したあいさつ運動の実施
- ・家庭へのあいさつの啓発を行う。

IV 特色・今日的課題

⑱ 学校行事の充実

R4

R5

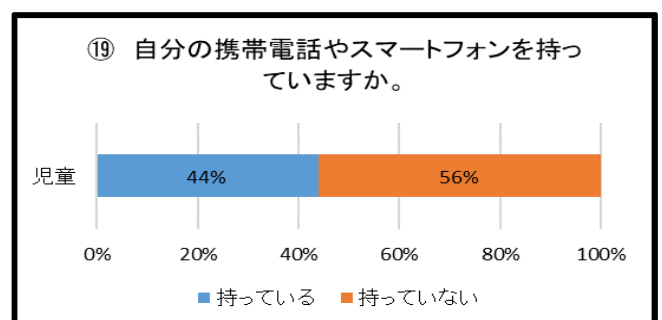
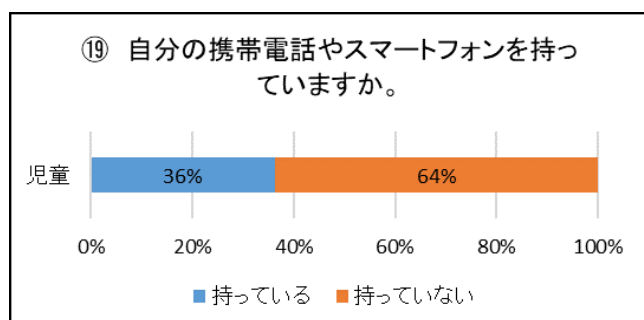


⑲ 携帯電話・スマートフォン

・所持率

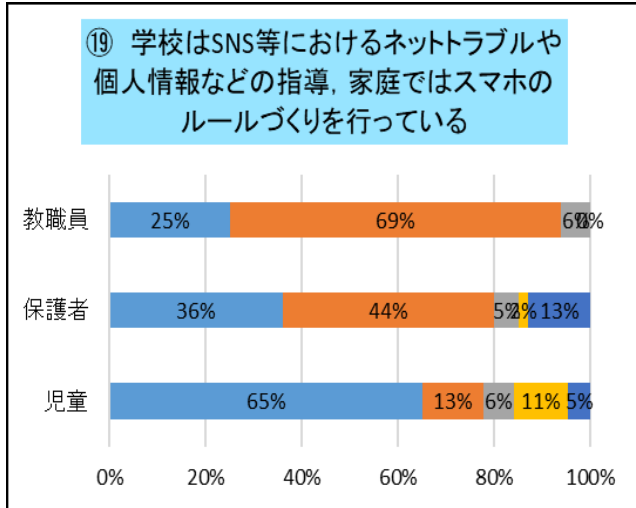
R4

R5

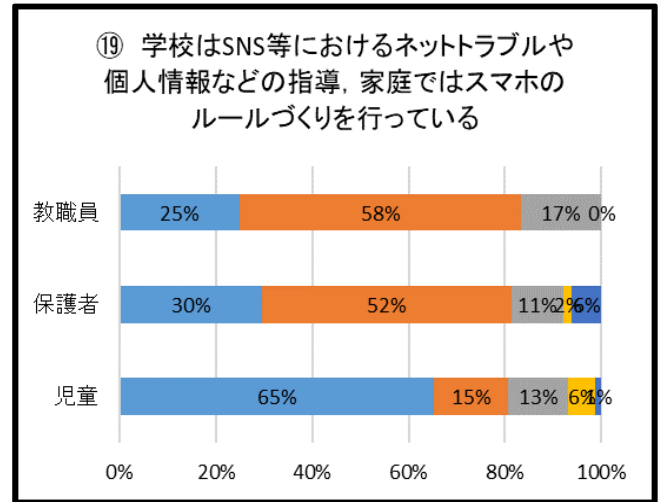


■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

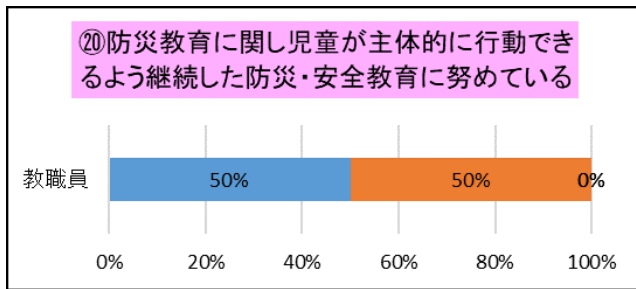
・ネット利用指導・家庭内のルールづくり R4



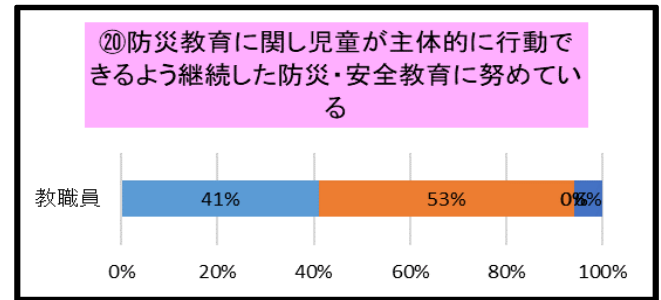
R5



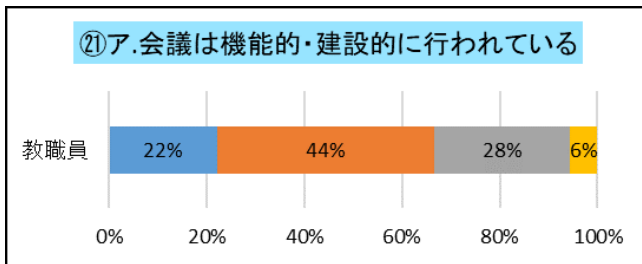
⑳ 防災・安全教育 R4



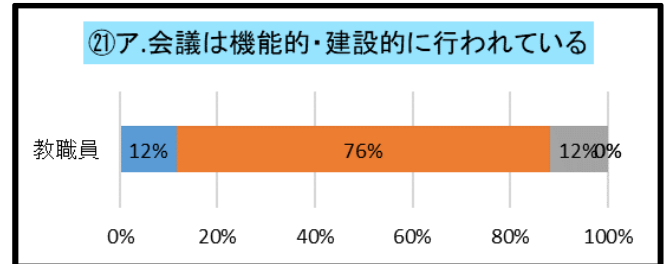
R5



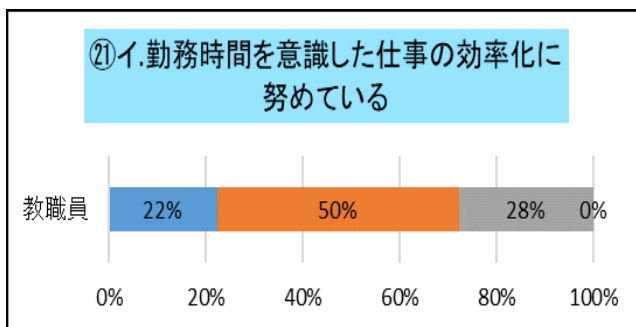
㉑ 教職員の働き方(業務改善) R4



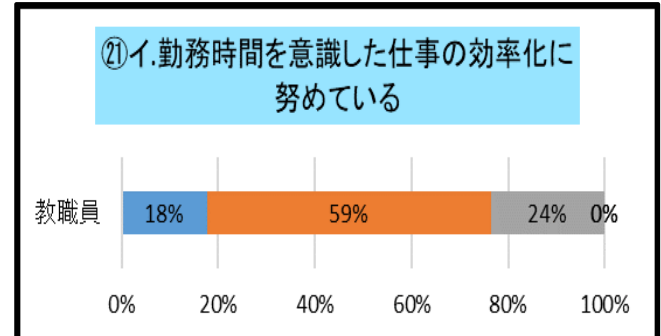
R5



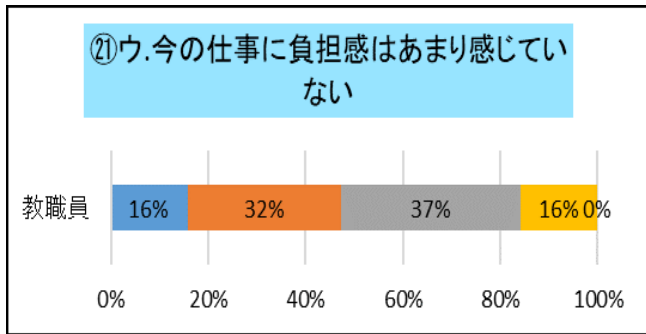
R4



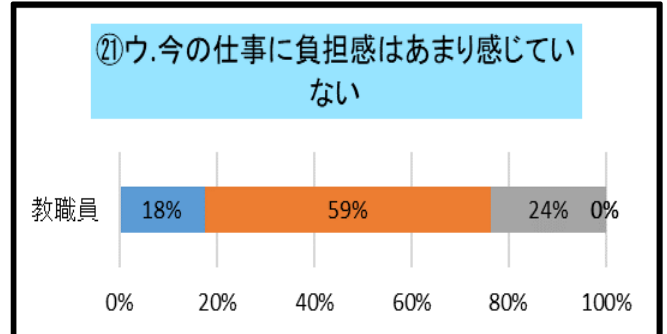
R5



R4



R5



考察

⑱の学校行事の充実は、昨年に引き続き三者ともプラス評価がほぼ100%で、授業参観や運動会、報徳祭等の行事で児童が活躍できるよう工夫してきた取組の成果が十分表れていると考えられる。また、⑳の防災・安全教育についても、昨年とは違う状況も想定しながら様々な訓練を今年も行っていることが、引き続き教職員から評価されている。一方、㉑からは、携帯電話・スマートフォンの所有率は予想通り上がっているのに、学校では情報リテラシー教育が、家庭ではルールづくりが一層必要であることがわかった。

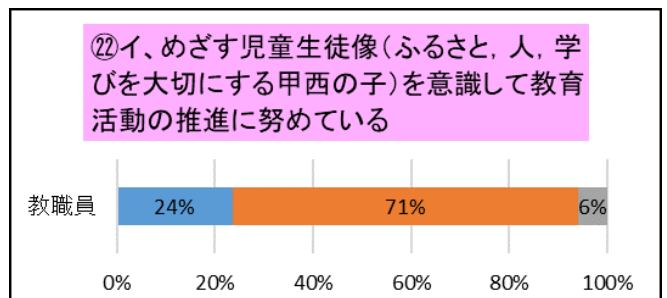
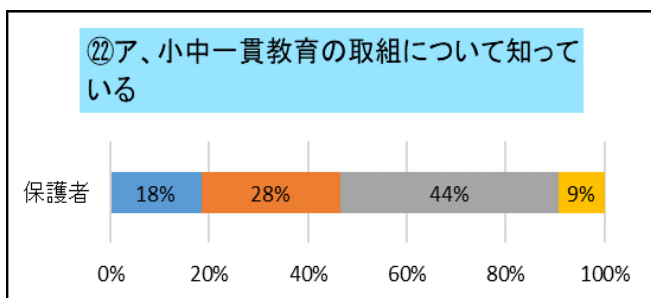
㉑の教職員の働き方（業務改善）の項目では、依然改善は必要ではあるが、昨年度に比べ改善されていることが分かる。会議の回数や持ち方の工夫、内容の精選、教職員の意見も踏まえた校内の業務の改善や精選、教職員の意識改革等が進んだ結果、仕事への負担感の大幅な軽減にもつながったのではないかと考えられる。今後も、教職員が健康で笑顔で子ども達に向き合い、教育効果を上げていけるよう、さらに業務改善を進めていく必要がある。

改善策

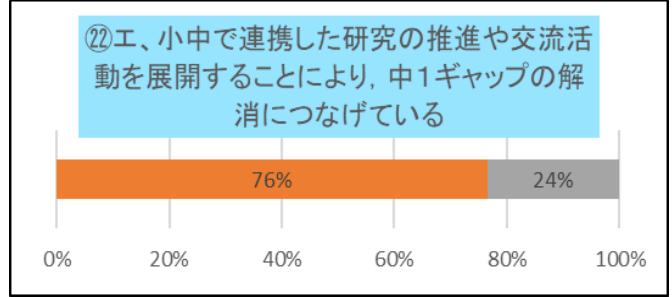
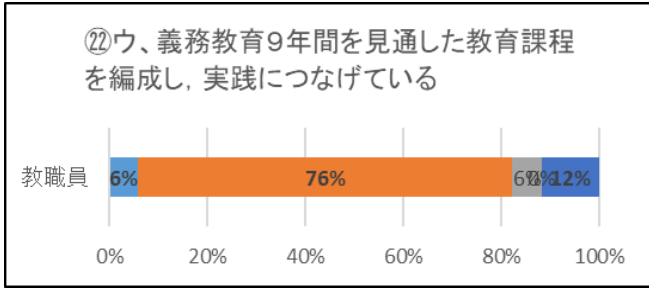
- 学校では、GIGA ワークブック等を用い、さらに情報リテラシー教育を進めていく。
- 今後もスマホ・携帯教室等、児童や保護者がインターネットの安全な利用について学ぶ機会を設け、家庭でのルールづくりを推進していく。
- R6 年度から新日課の導入、更なる校務の効率化等を行い、行事等の効果的な運営を行い、学力向上や教職員の勤務時間や健康管理も念頭に置きながら、教材研究等に十分な時間をさける体制をつくっていく。
- 保護者や外部団体、地域にお願いできる業務は、理解を得ながら順次協力をお願いし、教職員が本来担うべき職務に専念できるようにしていく。

V 小中一貫について

㉒ 小中教育 R5のみ



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない



考察

今年度から始まった甲西中学校区小中一貫校であるが、小中一貫した教育課程も整い、教職員は95%が早速意識した取組を始めているが、保護者の認知度はまだ46%と低い。また、中一ギャップの解消に実際につなげているかについては、プラス回答が74%とまだ若干低めである。今年度は初年度であり、中学校教員による陸上の指導、中学生が出身小学校のあいさつ運動参加、小6・中1・教職員へのアンケートの実施、教職員による小中相互の授業参観など、いくつかの取組が始まった。しかしあくまで試運転の状態、その効果は感じつつも日常の学校生活の中で調整し、軌道に乗せるまでにはまだ時間がかかりそうである。今後の取組が重要である。

改善策

- お便り、PTA 総会、HP など様々な機会を通じ、小中一貫教育で取り組んでいることを保護者に向けて発信していく。
- 作成した教育課程のうち、特に甲西小中スタンダード（教科におけるめざす児童・生徒像、それに迫るための各学年の手立てや活動）、各教科ごとの小中学校の学習内容一覧・系統図については、確実に本校の教育課程に入れる。また全員が目を通し、意識して各学年の指導に取り入れていく。
- アンケート等の結果を生かし、より効果的な小中連携の研究や交流活動を検討し、無理なく日常の取組として導入できるよう実施方法を工夫していく。

まとめ（成果と課題）

| Ⅰ 学校経営について | |
|--|---|
| 成 果 | 課 題 |
| 学校教育目標をもとにした学校経営 家庭への連絡や情報提供 安全な教育環境 地域人材や施設の活用 | |
| Ⅱ 学習指導について | |
| 成 果 | 課 題 |
| 分かりやすい・楽しい授業への取組 評価方法の工夫 ICT 機器の活用・協働的な学習 道徳教育を要とした豊かな心の育成 学習評価方法についての説明 | 計画的な家庭学習 |
| Ⅲ 生徒指導について | |
| 成 果 | 課 題 |
| 相談・支援の充実 児童理解の深化 いじめのない楽しい学校づくり | 児童のあいさつの定着 |
| Ⅳ 学校の特色・課題について | |
| 成 果 | 課 題 |
| 学校行事の充実 防災・安全教育 教職員の業務改善 | ネット利用指導・家庭内のルールづくり 教職員の業務改善 |
| Ⅴ 小中一貫教育について | |
| 成 果 | 課 題 |
| 教職員の実践意欲 | 小中一貫教育に対する保護者の認知 小中一貫を意識した教育課程の実践 研究の推進や交流活動の推進 |